

日本遺産を題材とした 道徳学習プログラム



宮原中学校 宮原小学校 坪内小学校

呉市教育委員会

日本遺産を題材とした道徳学習プログラム 目次

1	はじめに	1
2	日本遺産について	2
3	郷土愛を育む「道徳学習プログラム」	
◆	構想図	4
◆	各中学校区における構想図（マット）	5
◆	プログラムNo.1（小3対象）	
▪	プログラムの内容	6
▪	道徳教材「真っ黒なクレーン」	8
◆	プログラムNo.2（小5対象）	
▪	プログラムの内容	10
▪	道徳教材「歴史の見える丘から見たもの」	12
◆	プログラムNo.3（中1対象）	
▪	プログラムの内容	14
▪	道徳教材「入船山記念館に込められた思い」	16
▪	参考「呉市の日本遺産学習ノート」について	19
◆	プログラムNo.4（中3対象）	
▪	プログラムの内容	20
▪	道徳教材「一枚の絵」	22

はじめに

呉市では、平成28年3月に「呉市教育大綱」を策定し、呉市の教育の目標として「郷土を愛する心豊かでたくましい子どもの育成」を掲げました。時期を同じくして、平成28年4月25日、文化庁から「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」として、呉市が旧軍港3市とともに日本遺産に認定されたことを受け、郷土愛を育むことを目的に、日本遺産を題材とした道徳学習プログラムの作成に取りかかりました。

本プログラムの作成に当たっては、平成29年度「道徳教育改善・充実」総合対策事業（メニュー1）の推進校である宮原中学校及び同中学校区にある宮原小学校、坪内小学校に協力を依頼しました。宮原中学校区には、呉市の日本遺産の20の構成文化財のうち、13の文化財が点在しており、まさに日本遺産の構成文化財に囲まれた環境にあります。そのような環境の中で、オリジナルの道徳教材及び事前と事後の取組を有機的に関連付けた「道徳学習プログラム」を4本開発いたしました。特に、道徳の自作教材については、児童生徒が日本遺産についての興味や関心を高めるとともに、「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえ、「考え、議論する道徳」の授業を行う上でも、たいへん魅力的な教材となっています。

私は、郷土を愛する気持ちを持つことができる人こそ、国際社会で活躍できる「グローバル人材」になることができるのではないかと考えています。例えば、外国人から自分の出身地である呉市について尋ねられた時、呉市のよさや特色について語るができなかったとしたら、真に尊敬される人物になることはできないのではないのでしょうか。郷土に誇りを持って話ができる人材は、相手から人として大切にされ、国際社会でも活躍できる存在になれるはずです。たとえ進学や就職で地元を離れたとしても、郷土に愛着を持ち続けていれば、いずれ呉市に戻って後進の指導に当たるなど、恩返しをしたいという気持ちが芽生えるかもしれません。独自の文化や歴史を刻んできた呉市の学習をきっかけに、郷土に対する理解を深めるとともに郷土愛を高めていきたいと考えています。

さて、平成30年度より、本プログラムを呉市内の全小中学校で実施いたします。それぞれの中学校区において、中学校区や地域の実態を考慮し、カリキュラムマネジメントの視点を取り入れながら、ワクワク感を持って本プログラムを組み立てていただきたいと思います。

終わりにになりましたが、本プログラムの作成に当たり、御尽力いただきました宮原中学校区の先生方、呉市道徳部会の皆様に対し、心から感謝申し上げます。「郷土を愛する心豊かでたくましい呉の子どもの育成」に向けて、本プログラムが効果的に活用されることを期待しています。

平成30年3月30日

呉市教育委員会教育長 中村弘市

日本遺産について

「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」

平成28年4月、呉市は、横須賀市、佐世保市、舞鶴市とともに文化庁より日本遺産に認定されました。



日本遺産ロゴマーク

【日本遺産とは】

- ◆ 地域の歴史的魅力や特色を通じ、我が国の文化・歴史を語る物語（ストーリー）を認定
- ◆ 平成26年に文化庁によって創設、平成27年度から認定開始
- ◆ 平成32年までに100件程度の認定を予定
- ◆ 特徴

【日本遺産】	【従来型の文化財行政】
「活用重視」	「保存重視」
地域に点在する様々な遺産を「面」として活用・発信	個々の遺産ごとに、いわば「点」として指定

- ◆ その他、認定されたストーリー（例）

【尾道市】

尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市

【伊賀市、甲賀市】

忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー

【雲南市・安来市・奥出雲町】

出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～

【ストーリーの概要】

鎮守府開庁～四市の地勢と鎮守府の役割～

- ◆ 日本を守るために厳しい地勢条件を満たした四市に鎮守府（海防の拠点）を設置

躍動の時代～近代日本の技術を集結・発展～

- ◆ 最先端技術・設備を投入→西洋技術の吸収・人材育成・伝承
- ◆ 造船業を中心に日本近代化を推進

静かな農漁村から近代都市へ～国家プロジェクトによる都市形成～

- ◆ 鎮守府設置に伴い、急速かつ計画的な軍港都市を形成
- ◆ 国家プロジェクトによるインフラ整備、都市化の発展、人口増加

四市のいま～当時の近代化遺産と文化が息づくまち～

- ◆ 多種多様な数多くの近代化遺産が現役で稼働しており、躍動した往時の姿を体感できる。



スチームハンマー

横須賀市



海上自衛隊呉地方総監部

呉市



針尾送信所

佐世保市



舞鶴赤れんがパーク

舞鶴市



旧軍港四市シンボルマーク

【構成文化財】

旧呉鎮守府
司令長官官舎



元々は2階建てだったが、明治38年の芸予地震で倒壊後和洋折衷様式の平屋に再建

旧呉海軍工廠塔時計



大正10年、旧呉海軍工廠造機部の屋上に設置。現在も動いている。

旧東郷家住宅離れ



東郷平八郎が呉鎮守府参謀長として1年8カ月間住んでいた邸宅の離れを移築

呉軍港全図



海軍による計画的な軍港都市形成の意図を裏付ける貴重な資料

旧高鳥砲台火薬庫



総石造りの火薬庫は全国的にも珍しく、当時の技術力の高さを今に伝えている。

海上自衛隊
呉地方総監部第一庁舎



旧呉鎮守府庁舎。中央部にドームを配し、れんがと御影石を組み合わせた近代洋風建築

歴史の見える丘



ここに立つと、明治以降の呉の歴史と人々の心を肌で感じることができる。

JMU(株)呉事業所
大屋根



戦艦大和建造時の大屋根が現存しており「大和のふるさと」と書かれている。

アレイからすこじま



国内で唯一、海上自衛隊の潜水艦を間近で見ることができる公園

昭和町れんが倉庫群



製品置き場や大砲庫等として使用されていた。現在も民間企業が倉庫として活用

旧海軍工廠海軍技手養成所跡と周辺の海軍遺構



「ものづくりのまち呉」の礎を築いた優秀な技術者である「技手」を養成した施設

呉市海事歴史科学館
(大和ミュージアム)



日本の近代化そのものといえる呉の歴史を伝える博物館である。

長迫公園
(旧海軍墓地)



明治23年に開設、昭和61年に国から譲渡され、長迫公園として整備

宮原浄水場低区配水池



日本の近代水道初期の様子を知る上での貴重な施設として国登録有形文化財に指定

二河水源地取入口



呉鎮守府開庁に合わせて、竣工。近代水道としては横浜、函館に次ぐ歴史を誇る。

本庄水源地堰堤
水道施設



呉鎮守府水道の貯水池として大正7年に完成。当時は、東洋一の規模を誇った。

高鳥砲台跡



明治34年、旧陸軍が外国艦船の侵入を防ぐため高鳥台(標高218m)に建設

大空山砲台跡



明治36年竣工。近代土木建築の技や設計力、デザイン力の高さが感じられる。

海上保安大学校
煉瓦ホール



大正3年建造。建物の主要構造部、外観部分など建設当時の意匠をよく残している。

鎮守府のラッパの音色



艦船上で国旗や自衛隊旗の掲揚、降納時に響き渡る。アレイからすこじまで聞ける。

郷土愛を育む「道徳学習プログラム」

目標「郷土を愛する心豊かでたくましい呉の子どもの育成」（呉市教育大綱）

前期

「夢を持ち」

中期

「夢を語り」

後期

「志を抱く」

呉のよさに気づく

小3

【事前の取組】

身近な地域について知る活動

- 例 ◆ まちたんけん
◆ 呉市めぐり
◆ 遠足
◆ 社会科（身近な地域）

【道徳科】

真っ黒なクレーン

蒲刈の祖父とアレイからすこじまを散歩し、真っ黒なクレーンについて知る中で、日本遺産に関心を高める姿を描いたストーリー



【アレイからすこじま】

【事後の取組】

呉市の日本遺産について興味・関心を高める活動

- 例 ◆ 日本遺産マップ
◆ 日本遺産カレンダー
◆ 日本遺産カード
◆ 日本遺産かるた 作成

呉を愛する心を持つ

小5

【事前の取組】

美術作品ふれあい事業ふるさと文化探訪事業

- ◆ 呉市美術館（4年）
◆ 入船山記念館（4年）
◆ 大和ミュージアム（5年）

【道徳科】

歴史の見える丘から見たもの

横須賀のいところに呉市の日本遺産を案内されたできごとから、主人公がもっと郷土のことを知りたいと思う姿を描いたストーリー



【歴史の見える丘より】

【事後の取組】

呉市の日本遺産についてまとめたり伝えたりする活動

- 例 ◆ 日本遺産を紹介する文章を書く。
◆ 日本遺産リーフレットを作成する。

中1

【事前の取組】

呉市の日本遺産について理解を深める学習

- 例 ◆ 日本遺産学習ノートを活用した学習
◆ 横須賀・佐世保・舞鶴の日本遺産調べ

【道徳科】

入船山記念館に込められた思い

呉鎮守府司令長官官舎の存続の3つの危機について語るボランティアの話聞いて変容する主人公の姿を描いたストーリー



【呉鎮守府司令長官官舎】

【事後の取組】

呉市の日本遺産に主体的に関わる活動

- 例 ◆ 新聞づくり、入船山記念館塔時計旋律応募
◆ 日本遺産検定づくり
◆ 構成文化財等の清掃活動

呉への誇りを持つ

中3

【事前の取組】

地域に貢献することについて考える学習

- 例 ◆ キャリア・スタート・ウィーク
◆ 地域清掃活動
◆ 地域に貢献している人から話を聞く会

【道徳科】

一枚の絵

成人式を機に開かれた同窓会で、坪内小にあった益川進さんの絵の話題から、郷土愛について深く考える姿を描いたストーリー



【夏の呉港中央棧橋】

【事後の取組】

呉市への貢献につながる活動

- 例 ◆ ふれあい夢議会への提案
◆ 郷土愛について語る場（面接・交流等）

「呉の歴史絵本」「日本遺産学習ノート」「塔時計メロディ」「市政だより」の活用

呉市のこと
がすきだ

呉市のよさを
伝えたい

呉市のよさを
受け継ぎたい

呉市の発展に
貢献したい

郷土のよさに気づき，郷土に関心を高める道徳学習プログラム

前期
「夢を持ち」

中期
「夢を語り」

後期
「志を抱く」

呉のよさに気づく

呉を愛する心を持つ

呉への誇りを持つ

1 事前の取組

【身近な地域について知る活動】

◆ 学習場面 社会科／総合的な学習の時間／特別活動 等

◆ 内容（例）



（例）まちたんけん，呉市めぐり，遠足，社会見学等

- ・ 可能な学校は，呉市の日本遺産の構成文化財を訪れることができるように計画する。
- ・ 地理的な条件で，呉市の日本遺産の構成文化財を訪れることが難しい場合は，社会科で「身近な地域」を学習する際に「日本遺産」について触れる。

※ 「日本遺産学習ノート」の該当ページも活用できる。

2 道徳科

「真っ黒なクレーン」

◆ 主題名 ふるさとのすばらしさ C【伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度】

◆ ねらい おじいちゃんから「真っ黒なクレーン」の歴史について聞いた主人公の気持ちを考えることを通して，呉市にはたくさんのいいところがあることに気づき，郷土を愛する道徳的心情を高める。

◆ 教材名 「真っ黒なクレーン」（自作教材）

◆ 学習指導過程（例）

段階	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (○：主な発問，◎：中心発問，●：補助発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1（案1）「まちたんけん」について振り返る。	（案1）「まちたんけん」について思い出してみよう。 ・ 石やレンガでできた建物が多くあった。 ・ あんなに大きなクレーンを作った昔の人はすごいなあ。	○ 写真を提示したりしながら，感想や気づき等を聞く。
	1（案2）日本遺産クイズにチャレンジする。	（案2）入船山記念館の塔時計の高さは，何mでしょう。 ア 6m イ 8m ウ 10m エ 15m 【参考】「日本遺産学習ノート」にクイズが掲載されている。	○ クイズに関する写真も提示する。

展開	<p>2 教材「真っ黒なクレーン」を読んで話し合う。</p>	<p>○ 「ぼく」は、お父さんが働いている工場のことをどのように思っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きなクレーンがとても立派だ。 ・ 船造りは呉の自慢だ。 <p>○ 「ぼく」は、小さくて真っ黒なクレーンのことを、どのように思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古そうなクレーンだな。 ・ 使っていないのに、どうして残してあるんだろう。 ・ 何であんなところにクレーンがあるんだろう。 <p>◎ おじいちゃんの話聞いて、「ぼく」はどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あのクレーンが、そんなにすごいとは知らなかった。 ・ 小さくても、日本中に自慢できるクレーンなんだな。 ・ 呉にはすごいものが残っているんだね。 	<p>○ 「造船のクレーン」と「真っ黒なクレーン」に対する「ぼく」の思いが対照的になっていることを押さえておく。</p> <p>☆ 呉の町のよさに気づき、もっと知りたい、大切にしたいという気持ちを抱くことができたか。（ワークシート、発言等）</p>
終末	<p>3 教師の説話を聞く。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>○ 次の写真に共通しているものは何でしょうか。「昭和町れんが倉庫群」「呉市立図書館」「中通り」等、レンガが使われている写真を提示する。</p>  <p>○ 学習したことをふり返り、感想を書きましょう。</p>	<p>○ レンガが昔の文化財だけでなく、今も使われているこ</p>  <p>○ 自分とのかかわりでも考えさせる。</p>

3 事後の取組

【呉市の日本遺産について興味・関心を高める活動】

- ◆ **学習場面** 社会科／総合的な学習の時間／長期休業中の課題 等
- ◆ **内容（例）**

道徳科「真っ黒なクレーン」で学んだことについて想起しながら、以下のような活動に取り組む。
 (例) 日本遺産マップ、日本遺産カレンダー、日本遺産カード、日本遺産かるたづくり 等

- ・ 白地図に、呉市の日本遺産の構成文化財の写真を切り抜いて貼ったり、文化財名を書き込んだり、説明をまとめたりする。また、完成したマップを基に、日本遺産の文化財の特徴等について考える。
- ・ 訪れた日本遺産の構成文化財にシールを貼っていく。

※ 本プログラム冊子の3ページのデータも活用できる。



「真つ黒なクレーン」

ぼくの住んでいるマンションから、お父さんがはたらいている船をつくる工場が見えます。工場には高さ五十メートルもある赤と白でぬられた大きなクレーンがいくつもあったて、今では県のシンボルになっています。

ところが、お父さんの工場とは反対がわの海を見ると、小さくて真つ黒なクレーンが一つだけ、ぼつんとこのまっています。ぼくはこのクレーンが動いているところを一度も見ることがなかったので、もう古くて使われていないのだらうと思っていました。

ある日、蒲刈に住んでいるおじいちゃんが家に遊びに来ました。ぼくはおじいちゃんとさんぽに出かけ、アレイからすこじままでやってきました。ぼくはおじいちゃんに、日本では、ここでも近くで見ることのできないせんすいかんをじまんしました。するとおじいちゃんは、

「すこじよねえ。アレイからすこじまは県のじまん。でもね、アレイからすこじまのじまんは、せんすいかんだけじゃないんだぞ。」

と、言いました。ぼくは、

「えっ、他に何があるの。」

と聞きました。



アレイからすこじまにあるクレーン

するとおじいちゃんはだまって、あの真つ黒
なクレーンを指さしました。

ぼくは、びっくりして、

「あの真つ黒なクレーンが、じまんなの？」

と聞き返しました。すると、おじいちゃんは

「そうだよ。あのクレーンは何と百年以上も

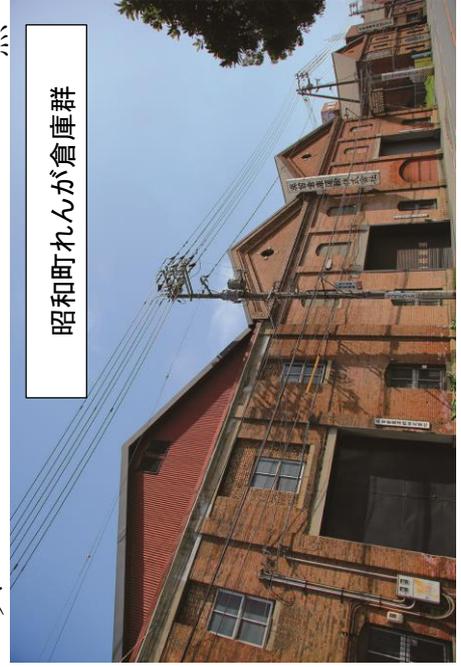
前に造られたものなんだよ。しかも、イギリス

製なんだ。海軍や呉の人たちの荷物のつみおろ

しに使われていたんだよ。呉の歴史にとって大事なものだから、今は使わ
れていないけど、大切に残されているんだ。」

と話してくれました。今まで知らなかったクレーンの歴史を知ったぼくは、
これまで何度も見てきたこの小さくて真つ黒なクレーンが、何だかいつも
より力強くて、かつこよく見えてきました。

帰り道、ぼくは、おじいちゃんからアレイからすこじまの赤レンガ倉庫の
ことや、呉には日本遺産とよばれる大切なものが他にもたくさんあること、
そして横須賀、佐世保、舞鶴にも同じような日本遺産があることなどを聞
きながら帰りました。



郷土を愛し、進んで郷土のよさを伝えようとする態度を育む道徳学習プログラム



1 事前の取組

【美術作品ふれあい事業及びふるさと文化探訪事業】

◆ 学習場面 社会科／図画工作科／総合的な学習の時間／特別活動 等

◆ 内容等

- (4年生) 呉市立美術館での絵画鑑賞及び入船山記念館の見学等
- ・ 学芸員による鑑賞マナー及び絵画等の説明，美術館作成資料の活用
 - ・ 資料「入船山記念館の案内」（呉観光ボランティア作成）の活用
- (5年生) 大和ミュージアム見学
- ・ ボランティアガイドによる説明を受けながらの見学
 - ・ ワークシート（大和ミュージアム作成）の活用
- ※ 「日本遺産学習ノート」の該当ページも活用できる。



2 道徳科

「歴史の見える丘から見たもの」

◆ 主題名 郷土を見つめ愛する心 C【伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度】

◆ ねらい 夢中になって市政だよりを探して読む充の気持ちを考えることを通して，受け継がれている呉市の伝統や文化，そのよさに気づき，更に発展させていこうとする道徳的態度を育てる。

◆ 教材名 「歴史の見える丘から見たもの」（自作教材）

◆ 学習指導過程（例）

段階	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (○：主な発問，◎：中心発問，●：補助発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 ふるさと文化探訪事業について振り返りながら，課題意識を持つ。	○ 美術館や入船山記念館，大和ミュージアムの見学について思い出してみましょう。 ● みなさんは，それぞれの場所について説明したり，よさを伝えたりできそうですか。	○ 写真を提示したりしながら，感想や気づき等を聞く。 ○ 補助発問を投げかけ，課題意識を持たせる。
展開	2 資料「歴史の見える丘から見たもの」を読んで話し合う。	○ いとこの麻衣さんから，日本遺産を案内してほしいと電話があった時，ぼくはどんな気持ちになったでしょう。 ・ 呉のことをたくさん知ってほしいな。 ・ ぼくが知っていることを，早く教えてあげたい。 ・ 呉のことをたくさん話して，麻衣さんに喜んでほしい。	○ 「日本遺産」の写真を提示しながら範読することにより，資料の内容を把握しやすくする。

		<p>○ 充は、なぜもやもやした気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 麻衣さんに呉のことをたくさん教えてあげたいと思っていたのに、麻衣さんの方がよく知っていたからショックだった。 ・ 逆に麻衣さんに詳しく教えられたことで、がっかりした。 ・ クラスのみんなからは、自分は日本遺産について何でも知っていると思われていたのに、恥ずかしい。 <p>◎ 夢中になって「市政だより」を探しながら読んでいた充は、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呉のことを知っているつもりでいたけど、まだまだ知らないことがたくさんあるな。 ・ もっと呉のことを知りたいな。 ・ もっとよく知らないのと、パンフレットはできないな。 <ul style="list-style-type: none"> ● 呉の港に沈む夕日が、何だかいつもよりも色鮮やかで美しく見えたのは、なぜでしょう。 ● 充はなぜ、改めて「歴史の見える丘」に行ってみたいと思ったのでしょうか。 ● 「歴史の見える丘から見えたもの」とは何でしょう。 	<p>○ 実際に「市政だより」を紹介したり、授業後に関連ページを掲示したりしてもよい。（呉市HPにもデータあり）</p> <p>○ 左記のような補助発問を通して、深く考えさせる。</p>
終末	3 本時のまとめをする。	<p>○ 今日の授業を振り返って、考えたこと感じたこと、「ふるさと（呉）」のために、今の自分にできることをワークシートに書きましょう。</p>	<p>○ 自分のこれまでの生活と重ね、授業を通して、「ふるさと（呉）」について考え、交流する。</p> <p>☆ 呉の伝統や文化、よさに気づき、自分との関わりで捉え、進んで呉のよさを伝えようとしている。（ワークシート）</p>

3 事後の取組

【日本遺産についてまとめたり伝えたりする活動】

◆ **学習場面** 国語科／総合的な学習の時間／長期休業中の課題 等

◆ **内容（例）**

道徳科「歴史の見える丘から見えたもの」で学んだことについて想起しながら、以下のような活動に取り組む。

（例1）呉市の日本遺産の構成文化財を一つ選び、その文化財の説明や、構成文化財を選んだ理由、魅力などを、文章でまとめる。

（例2）呉市の日本遺産について調べたことをもとに、パンフレット（リーフレット）を作成する。作成した紹介文やパンフレットを使って、他学年に紹介したり、校内に掲示したりする。また、6年生の修学旅行で旅館の方やバスガイドに紹介する等の活用も考えられる。

「歴史の見える丘から見たもの」

ぼくは、小学五年生。呉で生まれて、呉で育った。

この前、担任の先生が

「呉市や宮原地区のよいところは、どんなところですか？」

とたずねられた。みんなは次のように答えた。

「呉市は戦艦大和のふるさとで、昔から造船が盛んです。」

「灰ヶ峰から見える夜景は、とてもきれいです。」

「宮原から見える夕日も負けてないと思います。」

「宮原は行事もたくさんあって、地域の人も優しいです。」

そこでぼくも発言した。

「呉市が四つの市で『日本遺産』に認定されたのを知っていますか？」

「四つの市って？」

「聞いたことありませんか？昔、軍港のあった呉市、横須賀市、佐世保市、舞鶴市の四つです。四年生のときに行った人船山記念館にある『塔時計』、学校の近くの『歴史の見える丘』この前見学に行った『大和ミュージアム』にある資料や、この宮原地区にある日本で最も古い水道施設も日本遺産に含まれているんです。」

それを聞いていたみんなから歓声が上がった。先生も、

「呉市は日本の中でもすごい『まち』ですよ。充くん、呉市のことをよく知っていますね。」

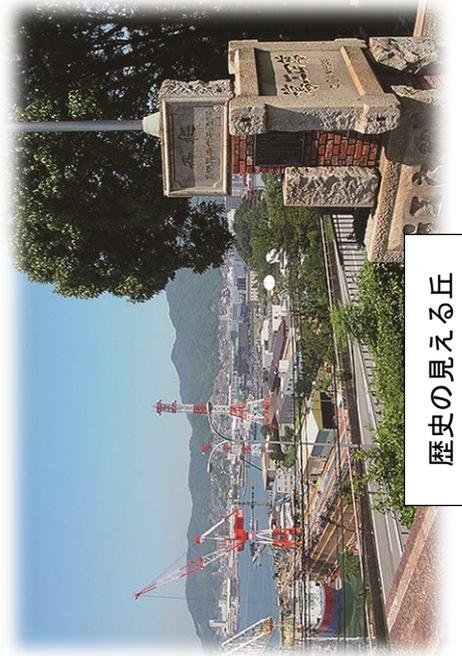
とほめてくれ、次のように続けた。

「呉市が『日本遺産』に認定されて、呉市を訪れる観光客が増えていることは知っていますか？」

「日本の人たちだけでなく、海外からも呉市を訪れる人たちが増えていると思います。」その意見を聞いて、ぼくは、

「観光客に呉市のよさをたくさん知ってほしいと思います。呉市のよさを調べて紹介するパンフレットを作るのはどうですか？」

と提案した。クラスみんなも、「それいいね。」「やろう、やろう。」などと盛り上がった。



歴史の見える丘

そんな矢先、横須賀に住んでいるいとこの麻衣さんから電話があった。呉のおばあちゃんのところへ遊びに来るので、日本遺産を案内してほしいとのことだった。ぼくは喜んで返事をした。

夏休みに入り、麻衣さんが呉にやってきた。ぼくは、まず「歴史の見える丘」に案内した。到着するなり、麻衣さんは

「充くん、ここから見えるドックは、横須賀のドックとよく似ているわ。横須賀の一号ドックは、日本で一番古い西洋式の石造りドックだよ。歴史の見える丘には、ドックの石を使つてつくられた記念塔や記念碑もあるよね。どれかなあ。」

「この碑や塔のことだよね。」

「これこれ。『憶戦艦大和塔』・・・写真で見たのと同じだ！いつもこんなに近くで見ることができて、すごいよね。この近くには、正岡子規の句碑もあるでしょ。」

「えっ。」

「あ、あった。この句は、子規が船から日暮れの休山を見ながらつくった句だよね。」

「そ、そうだね・・・。」

ぼくは歴史の見える丘から見える夕日に、自分のもやもやした気持ちを重ねていた。

帰宅したぼくは、お母さんにその日のできごとを話した。お母さんは、

「これ読んでこらん。」

と言つて、呉市の市政だよりを渡してくれた。ページをめくってみると、呉市の日本遺産がシリーズで紹介されており、ちょうど「歴史の見える丘」が紹介されていた。

これらの塔は、鎮守府とともに発展してきた呉の歴史を象徴するとともに、先人の業績を讃えています。また、ここからは戦艦「大和」を建造した旧呉海軍工廠造船部造船船渠の大屋根を間近に見ることができます。ここに立つて、軍港から平和産業港湾都市としての道を歩んできた明治以降の呉の歴史に思いをはせてみませんか。(市政だより29年7月号)

気が付けば、ぼくは、これまでの市政だよりを探しては、何冊も何冊も夢中になって読んでいた。

次の日、改めて「歴史の見える丘」に行ってみた。何度となく見てきた呉の港に沈む夕日が、何だかいつもよりも輝いて見えた。



歴史の見える丘からの眺め

郷土を愛し、進んで郷土のよさを受け継ごうとする心を育む道德学習プログラム

前期
「夢を持ち」

中期
「夢を語り」

後期
「志を抱く」

呉のよさに気づく

呉を愛する心を持つ

呉への誇りを持つ

1 事前の取組

【呉市の日本遺産について理解を深める学習】

◆ 学習場面 総合的な学習の時間／特別活動／長期休業中の課題 等

◆ 内容(例)

- (例1) 「日本遺産学習ノート」を配付し、以下のような活動に取り組む。
- ・「日本遺産クイズ」(p44)にチャレンジする。
 - ・「『日本遺産』って何だろう？」(p1)を読み、日本遺産について理解する。
 - ・「やってみよう・調べてみよう・考えてみよう」にチャレンジする。
 - ・個人又はグループで、興味のある文化財の一つを選び、調べ学習をする。
- (例2) 横須賀市、佐世保市、舞鶴市の日本遺産について、調べ学習をする。



2 道德科

「入船山記念館に込められた思い」

- ◆ 主題名 先人の思いを受け継ぐ C【郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】
- ◆ ねらい 二人の中学生が、ボランティアガイドから、入船山記念館にある旧呉鎮守府の司令長官官舎が今の姿を残すに至るできごとや、かかわった人たちの思いを聞くことを通して、現在私たちが目にしている文化財等が貴重なものであることに気づき、これらこれからも大切にし、受け継いでいこうとする道徳的心情を育てる。
- ◆ 教材名 「入船山記念館に込められた思い」(自作教材)
- ◆ 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (○：主な発問，◎：中心発問，●：補助発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 入船山記念館や塔時計の写真を見ながら、課題意識を持つ。	○ この写真は何の写真でしょう。(以下の写真を提示する。) 「塔時計(昔)」 「塔時計(今)」 「地震で倒壊した司令長官官舎」 「日本に返還されたときの入船山記念館」 「現在の入船山記念館」  塔時計(昔)  塔時計(現在)	○ 塔時計旋律募集優秀賞受賞作品メロディーを流しながら提示する工夫もある。 ○ 「入船山記念館が今も残っているのはなぜだろうか」と投げかけ、課題意識を持たせる。 【参考】入船山記念館は平成29年に、開館50周年を迎えた。

<p>展開</p>	<p>2 教材「入船山記念館に込められた思い」を読んで話し合う。</p> <p>3 自分を振り返って自分にできることを考える。</p>	<p>○ この教材を読んで、感じたことや考えたことを書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今、入船山記念館があるのは当たり前だと思っていたが、多くの人が危機を救ってきたことを知り、びっくりした。 和田さんも、ある意味、入船山記念館を受け継いでいる人だと思った。 完全に途絶えていた制作技術を復活させた上田さんは、なぜそこまでできたのだろうか。等 <p>◎ 入船山記念館など文化遺産を受け継いでいくことに、どのような意味があるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の大切な文化遺産を、未来の人たちにも伝えていくことが、その時代に生きる人の責任だと思ふ。 これまで多くの人がいろんな思いを持って受け継いできたことを知った上で、文化遺産を見ることで、心が豊かになる。等 <p>○ あなたは、入船山記念館など、地域の文化財を受け継ぐためにどんなことができますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> もっと、地域の文化財等について知り、いろんな人に語り継ぎたい。 地域の文化財等についてまとめ、インターネットで発信してみたい。 清掃活動など、できることをやってみたい。等 	<p>○ 範読しながら、次のことを板書で整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入船山記念館の危機を救った三人の名前、写真、キーワード等 二人の中学生の変容(たいぎい →すごいよね) <p>☆ 郷土ををこれからも大切にし、受け継いでいこうとする気持ちを抱くことができたか。(発言、ワークシート)</p> <p>○ 呉市や地域に対して主体的にかかわろうとする心情につなげる。</p>
<p>終末</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>○ 教師の説話</p> <ul style="list-style-type: none"> ダムを造るにあたって、水没した八田原地区があること、水没した八田原駅の案内板をダムの近くに残されていることを紹介する。(失われた郷土を受け継ごうとする思いを考えさせる) <p>【参考】「水没した駅」 (出典：広島県教育委員会『心の元気Ⅱ』)</p>	

3 事後の取組

【呉市の日本遺産に主体的に関わる活動】

- ◆ **学習場面** 音楽科／特別活動／総合的な学習の時間／長期休業中の課題 等
- ◆ **内容(例)**

道徳科「入船山記念館に込められた思い」で学んだことについて想起しながら、以下のような活動に取り組む。

- (例1) 日本遺産の活用を視点に新聞にまとめ、コンクール等へ応募する。
- (例2) 「入船山記念館塔時計旋律募集」に応募する。
- (例3) 「呉市の日本遺産検定」を作成し、ホームページで公開する。
- (例4) 日本遺産の構成文化財における清掃ボランティア活動に取り組む。
- (例5) 他市からの修学旅行生との交流において、呉市の日本遺産についてプレゼンする。 等

入船山記念館に込められた思い

私たちは総合的な学習の時間に、入船山記念館に行くことになりました。そこは昔、呉鎮守府司令長官の官舎があったところです。

「なんで、わざわざ昔の偉い人が住んだところに行つて勉強せんといけんのん？」

友達の理世が言ったのを聞いて、私も（それもそうよね、こんなに時間をかけてまで行くところ？）と疑問に思っていました。

私たちのグループでは、ボランティアガイドの和田さんがいろいろなことを教えてくださいました。

「あ、う、呉鎮守府って何ですか？」

私はリーフレットを見ながら、知らないこの鎮守府という言葉について質問すると、和田さんは優しく教えてくださいました。

「そうだなあ、鎮守府とは明治時代、全国四カ所に置かれた日本を守るための海軍の拠点のことで、当時呉は横須賀と並ぶ一大拠点だったんだよ。実は、昔の鎮守府関係の建物で、いつも一般に開放されているところはこの入船山記念館だけなんだよ。」

理世はそれを聞いて「ふうん。」といった表情で和田さんの話を聞いていました。

最初に行つたのは郷土館二階の展示室でした。展示されている写真のほとんどは軍服を着ている人でしたが、その中に背広姿の人の写真がありました。

「だれ、この人？」

と、いう私のつぶやきを聞いた和田さんが、

「この人はね、この入船山記念館が、呉鎮守府司令長官官舎と呼ばれていたところに、この建物を建てた櫻井小太郎という人だよ。」

と教えてくださいました。

「櫻井さんが呉鎮守府に建築技師としてやってきたのは、明治二十九（一八九六）年のことで、当時は日清戦争のあとで、船の修理や新たなドックの建設、設備の拡大・補強をしなければならなかったため、その設計や建築も全て櫻井さんたち、建築技師たちの肩にかかっていたんだよ。櫻井さんが建築にかかわる責任者になった矢先の明治三十八（一九〇五）年六月二日午後二時四十分頃、呉は大地震に襲われて、呉の中心部は、ほと



入船山記念館（旧呉鎮守府司令長官官舎）



櫻井小太郎さん

んどの家が崩れたり、屋根が落ちたりして、大変な被害を受けたんだ。司令長官官舎も、玄関の壁や外壁の多くは崩れ落ち、二階のテラスは大きく傾き、屋根もすべて落ちてしまって、もとの二階建ての豪華な建物は無残にも崩れ落ちてしまったんだ。」

続けて和田さんは話されました。

「まず、櫻井さんが早急にしなければならなかったことは、何だったと思う？それは司令長官官舎の再建を実現させることだったんだね。でも、戦争のために多くの資材がつき込まれていたから、限られた資材で建て直すしかなかったんだ。しかも時間もかけられない。そこで櫻井さんは構想を練り、普通では一年以上かかる工事を半年で仕上げ、司令長官官舎を再建することに成功したんだ。」

私たちは司令長官官舎に向かって行きました。

「これが司令長官官舎だったんだ。」

私は、今までも見たことはあつた司令長官官舎を改めて見つめ直しました。和田さんは、

「そうだよ。初めの存続の危機は、櫻井小太郎さんのおかげで乗りきったんだ。」

と言われました。私は、「初めの…」というところに引つかかって聞き返しました。

「初めのつてことは、まだあつたんですか？」

和田さんは、司令長官官舎を見ながら、また話し始めました。

「二つめの危機は、昭和二十（一九四五）年、第二次世界大戦のあと、日本が連合軍の占領下に置かれて、ここが連合軍の司令官舎として使われるようになったときだな。そのとき、建物の中や外は白ペンキで真っ白に塗られてしまったり、改造されたりして、もとの^{おもかげ}面影はなくなつてしまったんだ。その後連合軍が撤退したあとは、日本に返還されたけれど、呉市のものではなかつたんだ。」

「えっ？呉市のものじゃなかつたんですか？」

それを聞いて私はすかさず和田さんに聞きました。和田さんはうなずきながら、

「そうだよ。でもそのあと、呉市に譲り渡されるよう尽力されたのが、最後の呉鎮守府司令長官^{かなざま まさお}だつた金沢正夫さんという人なんだ。金沢さんは、戦時中は昭和二十年の呉空襲後の呉市の復興支援や、終戦にともなう呉市民や市政の^{どうよう}動揺を収め、さまざまな問題を解決して、部下だけでなく呉市民からも尊敬されたそうだよ。」

「早く建物の中を見たくなつてきた！」

と、私が言うと、



金沢正夫さん

「じゃあ、中に入ろう。」

と和田さんは、中に案内してくださいました。

建物の中の和室から洋室へ通じる廊下で、^{りせ}理世が叫びました。

「わーっ、きれい！この壁！」

「本当だ。向こうの部屋まで続いているよ。」

それを見ていた和田さんが言いました。

「よく見てごらん。いろんな種類の壁紙が貼つてあるんだよ。何種類あると思う？」

「えっと、一、二、三……四……五種類だ。」

「そうだよ。五種類の壁紙を使っているんだ。この壁紙のことを^{きんからかみ}金唐紙というんだ。」

「本当にきれいな壁紙ですね。」

と私が言うと、和田さんが次のように教えてくださいました。

「金唐紙は明治時代の洋風建築によく使われていたけれど、今では、ほとんどなくなり、金唐紙が使われている建物は全国に七つしかなくて、貴重な文化財になっているんだ。平成七（一九九五）年、^{たかし}上田尚さんらが、完全に途絶えていた制作技術を復活させて、この司令長官官舎の金唐紙が当時のままの状態に復元されたんだ。そしてこの建物は明治時代の貴重な建築物として国の重要文化財に指定されたんだよ。」

「…ねえ、なんか、すごくない？」

「うん。すごいよね。いろんな人の思いがこの入船山記念館を残したんだね。」

最後に、和田さんが、私たちに話されました。

「僕はね、この仕事をやってきてよかったと思うよ。それはね、君たちにこうやって伝えることができるからだよ。」

「……そうなんだ！」

私たちは顔を見合わせました。

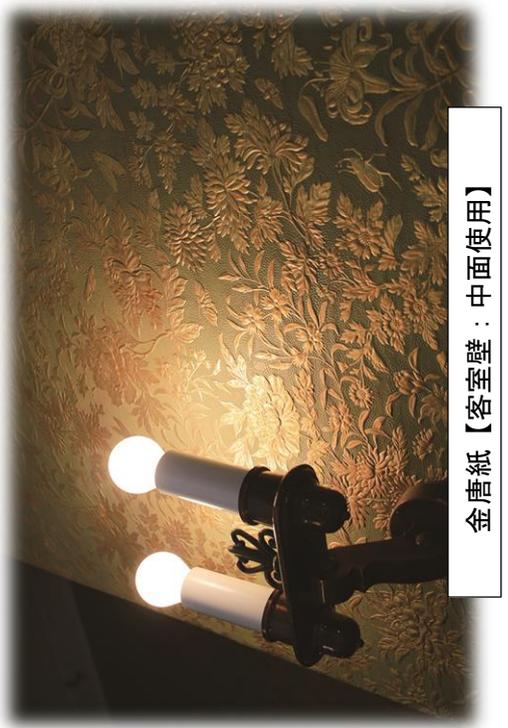
「……ねえ、なんだかもつと呉のことを知りたくなったよ。」

「うん、うん。私たちにできることは何かな。」

私たちは笑顔で入船山記念館を後にしました。



上田尚さん



金唐紙【客室壁：中面使用】

「呉市の日本遺産学習ノート」について

宮原中学校が作成した「呉市の日本遺産学習ノート」は、A5判で、見開き2ページに、生徒が取材・調査した呉市の日本遺産20か所の情報をまとめている。呉市教育委員会学校安全課のホームページからもダウンロードすることができる。

【内容】

- ◆ 「日本遺産」とは？
- ◆ 構成文化財について（20箇所）
- ◆ 日本遺産クイズにチャレンジしよう！

(例) 旧鎮守府は日本全国に何か所あったでしょうか。

ア 2か所 イ 4か所 ウ 6か所 エ 8か所

(例) 日本遺産を認定するところはどこでしょうか。

ア ユネスコ イ 環境省 ウ 文化庁 エ 国土交通省

- ◆ やってみましょう

(例) あなたが好きな構成文化財の一つを選び、次のア、イの条件に合わせて文章を書いてみましょう。

ア 第1段落には、選んだ構成文化財の説明を書く。第2段落には、その構成文化財を選んだ理由を書く。

イ 180字以上、200字以内で書く。



取材・調査している様子

No.6 海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎(旧呉鎮守府庁舎)

所在地 〒737-8554 呉市幸町8
 行き方 JR呉駅から 徒歩15分(約1000m)
 3番のりば(音戸倉橋島方面行)5分、「総監部前」下車すぐ
 3番のりば(阿賀方面行)5分、「総監部前」下車すぐ

城山の入口から入り、受付をしましょう。見学する場合は、事前連絡が必要です。

※日曜日のみ見学ができます。問い合わせは海上自衛隊呉地方総監部広報係 (Tel: 0823-22-5511 内線2702) まで。

☆解説
威風堂々(いふうどうどう)とした造形の美しさを誇る旧呉鎮守府庁舎は、

解説

明治40(1907)年に竣工(しゅんこう)しました。中央部にドームを配し、れんがと御影石(みかげいし)を組み合わせた近代洋風建築に当時の技術力の高さがうかがえます。鎮守府のまち呉を礎(し)のぶ代表的な建造物であるとともに、現在、呉地方総監部第一庁舎として大切に活用されています。

正面だけでなく、海側も正面と同じような造りをしていました。戦前からの建物が残っていて、多岐もきれいに整われていることはすごいと思いました。

■やってみよう・調べてみよう・考えてみよう
 ○旧呉鎮守府は明治何年に開庁したでしょうか。
 ア 19年 イ 20年 ウ 22年 エ 32年
 ○第二代呉鎮守府庁舎(現海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎)は、明治何年に竣工(しゅんこう)したでしょうか。
 ア 20年 イ 30年 ウ 40年 エ 45年
 ○旧呉鎮守府庁舎裏には、地下通路への入口がありました。どこにつながっていたでしょうか。
 ア 呉駅 イ 入船山記念館 ウ 地下作戦室 エ 呉市役所
 ○旧呉鎮守府庁舎の中央部のドームは何でできているでしょうか。
 ア 鉄 イ アルミニウム ウ 銅 エ その他

メモ

所在地等

生徒の感想

やってみよう
調べてみよう
考えてみよう

【作成した生徒(宮原中)の感想】

- ◆ さまざまな日本遺産をめぐることによって日本遺産について深く知ることができた。呉や宮原の歴史について学ぶことができた。もっと知りたいと思った。学習ノートの次も何か続きを作りたい。
- ◆ とてもいい経験になったので、また作りたいです。
- ◆ 呉市の良さを知ることができました。実際に日本遺産を調査して勉強になりました。呉市や宮原のことが好きになりました。



郷土に誇りを持ち、進んで郷土の発展に努めようとする心を育む道德学習プログラム



1 事前の取組

【地域に貢献する活動】

- ◆ 学習場面 総合的な学習の時間／特別活動／長期休業中の課題 等
- ◆ 内容等

地域に貢献するという意識を持たせながら、以下のような活動に取り組む。

- (例1) キャリア・スタート・ウィークに参加した際に、受け入れ事業所の方から、「地域への貢献」をテーマに話を聞き、まとめる。
- (例2) 地域での清掃活動等に取り組む。
- (例3) 地域に貢献している方をゲストティーチャーに招いて講演会を開き、話を聞いたり、感想をまとめたりする。

2 道德科

「一枚の絵」

- ◆ 主題名 郷土へ貢献する思い
C【郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度】
- ◆ ねらい 広告デザイナーの益川進氏の生き方を知ることを通して，郷土を愛し大切に思う心について考えさせ，郷土のために貢献したいという道德的実践意欲を培う。
- ◆ 教材名 「一枚の絵」（自作教材）
- ◆ 学習指導過程



段階	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (○：主な発問，◎：中心発問，●：補助発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 (案1) 「初夏の呉港中央棧橋」の絵を見る。	(案1) あなたは，この絵を見てどのようなことを感じますか。 ・ 宮原の風景が描かれている。 ・ 呉港の風景（フェリー，潜水艦，漁船など）が描かれている。 ・ どこか懐かしい気がする。	(案1) 絵をグループごとに配付するなどして，じっくり見せる展開もある。
	1 (案2) 事前の取組について振り返る。	(案2) 事前に取り組んだ「地域に貢献する活動」（キャリア・スタート・ウィーク，地域清掃活動，地域に貢献している人から話を聞く会等）について，振り返ってみましょう。	(案2) 活動中の写真を見せたり，感想文を紹介したりして事前の取組について想起させる。

展開	2 教材「一枚の絵」を読んで話し合う。	<p>○ 世界的に活躍した益川さんが、晩年になって、50年ぶりに、何度も呉を訪れ、呉の絵を描いたのはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病気の状態から死期を悟っており、死ぬ前に呉に帰りたかったから。 ・ 呉は思い出深いし、呉のことを愛していたから。 ・ 自分のもとをつくってくれたところだから。等 <p>○ あなたなら、校長先生の「呉が日本遺産にならなかったら、ちがうのかな。」にどう答えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本遺産に認定されたことがきっかけで興味や関心が高まることもよいことだと思う。 ・ 日本遺産に認定されなくても大切にしていきたい。呉市や地域の文化財を大切に思う気持ちは変わらないと思うから。 等 <p>● 郷土がなくなったとしたら（郷土に戻れない状況になったとしたら）、どんな思いになるのだろうか。</p> <p>◎ あなたにとって、「郷土愛」とは何でしょうか。また「郷土愛」は人生においてどんな意味があるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土を誇りに思うことで、自分もがんばろうという気持ちになる。 ・ 苦しい時やつらい時に心の支えになると思う。 ・ 郷土は自分を育ててくれた場所だから、大切にしていってほしいと思う。 	<p>○ 範読しながら、益川さんの作品を実際に提示し、益川さんが世界的に活躍していたことについて理解させる。</p> <p>○ 生まれ育った郷土は、特別な存在であり、自分の人生に大きな影響を与える存在だということに気付かせる。</p> <p>○ 呉から離れて8年たっている今日子の視点からも考えさせる。</p> <p>☆ 郷土のために貢献したいという思いを抱くことができたか。（ワークシート、発言）</p>
終末	3 教師の説話を聞く。	<p>○ 室生犀星の言葉「ふるさととは（ ）にありて思うもの」を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ （ ）には、どんな言葉が入るでしょう。 ・ 遠く離れた場所にいるからこそ感じる思い、遠く離れた場所にいると仮定したときに感じる思いを想像してみましょう。そのうえで、自分にどんな貢献ができるか考えてみましょう。 	<p>（答え：遠き）</p> <p>【参考】私たちの道徳 p 202</p>

3 事後の取組

【呉市への貢献につながる活動】



- ◆ **学習場面** 学級活動／総合的な学習の時間／生徒会活動等
- ◆ **内容（例）**

道徳科「一枚の絵」で学んだことについて想起しながら、以下のような活動に取り組む。

（例1）呉市に貢献するための取組について考え、「ふれあい夢議会」への提案につなげる。

（例2）次のことについて語る場を持つ。（交流、面接練習等）

「あなたの出身である呉市のすばらしいところはどんなところですか。」

「呉市の発展のために、あなたはどんなことをしたいですか。」

「あなたにとって、ふるさととはどんなものですか。」

一枚の絵

今日は小学校の時のクラス会。成人式を迎えた私たちは、呉港の見える素敵なお店に集まりました。私たちの卒業と同時に退職された当時の校長先生も出席されて、みんな小学生の時に戻ったように、楽しそうに騒いでいました。お店の窓からは、夕暮れの呉港が見えていました。

「わー。呉の海、変わつたらんね。なつかしいわ。」

と小学校卒業後に、お父さんの転勤で佐世保へ転居した今日子が興奮しながら話しました。

「小学校以来だから、今日子はそうかもしれないな。」

「うん、やつと呉に帰って来たって感じ。」

「僕はこの時間に見る呉港の景色が一番好きだな。」

と、みんなで話が盛り上がっていました。

「みんな、知ってる？ 呉市って日本遺産に認定されたんだよ。」

と、地元の大学に進んだ豊が言いました。

「いつも何気なく見てたものが日本遺産だなんて、びっくりよね。」

「そうそう。」

その時、今日子が

「ねえ、みんな。ここから見える景色って、小学校にあつたあの絵に似ていると思わない？」

「絵って何？」と豊。

「小学校の図書室に飾つてあつた絵よ。」

「あぁ、思い出した。確か校長先生が、あの絵のことを話して下さったことがあつたよね。」

校長先生は、二人の会話をニコニコしながら聞いていました。

「校長先生、あの『一枚の絵』の話をもう一度していただけますか。」

とみんなが言うと、校長先生は呉港から見える休山や宮原の景色を眺めながら話し始めました。



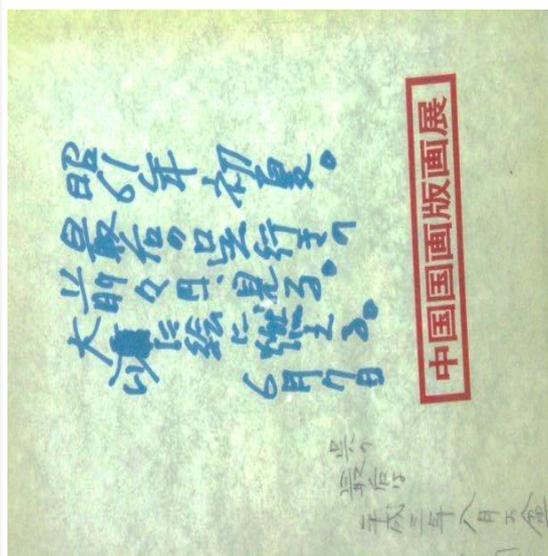
夏の呉港中央棧橋（平成2年）

「『父の描いた油絵がそちらにありますか。』と一通のメールが坪内小学校へ届いたのは、君たちが六年生の時だったかな。差し出し人は益川智美さんという方で、そのメールには次のような内容が書かれていたんだよ。

〈智美さんのメールの抜粋〉

この封筒を見つけたのが、私が呉を訪れたいと思っ
たきっかけです。

どちらも父の字ですが、昭和六十一年に「^{さいご}最後」と
書いているのは「最初で最後」の気持ちだったのでは
ないでしょうか。当時は父の妹夫婦もまだ呉に住んで
いたり、昔の同級生にも会えたり、一度のはずが年に
何度も訪れるようになったようです。左下に書き添え
てある平成三年八月の「^{さいご}最後」は同年十一月に咯血、
翌年三月に食道がんで他界したことを思いますと、全
てを察していたのではないかと胸をつくものがあり
ます。その父が、呉を訪れた際に描いた油絵がそちら
にありますか。



メールを受け取った私は、図書室に以前か
ら飾られている油絵のことを思い出してね。さつそく図書室に行ってみたんだ。絵を見ると、左隅
に Masukawa 1990 と書かれてあったんだ。そのことから、この油絵が坪内小学校卒業の広告デザイ
ナー、^{ますかわすすむ}益川進さんからの寄贈のものであることが分かったんだよ。」

「じゃあ、もし小学校へメールが来なかつたら・・・」と今日子がつぶやきました。

「誰も益川さんが描いた絵だということを知らなかつたわけだね。」と豊。

「^{ますかわすすむ}益川進さんってどんな人だったっけ。」と今日子がいきました。

みんなは、小学校時代を思い出しながら、

「デザイナーだったかな。」 「そうそう画家だった。」

「いや、確か、映画関係の仕事をしていた人じゃない。」

と、楽しそうにしゃべりだしました。すると誰かから、

「校長先生、続きをお願いします。」

という声が上がりました。校長先生は再び、話し始めました。

「『広告デザインを芸術作品にした男』これが、益川進さんの呼び名だよ。広告デザインの世界に入った当初は、地方から出て来た彼に対する風当たりは強く、広告デザイナーとしてなかなか認められなかった上に、結核の症状も出て、精神的にも肉体的にも一番つらい時期だったらしい。そんな彼の転機となったのが四十代になってから、特に四十五歳で第一回読売映画広告賞を受賞したことなんだ。それ以降、日本映画だけでなく外国映画の宣伝ポスターや新聞広告、雑誌・書籍の表紙のデザインやロゴのレタリングなども手がけ、アメリカ・ドイツ・チェコ・日本などの国内外で、実に三十数回デザイン賞を受賞しているんだよ。」



受賞後の益川 進さんの仕事風景

「小学校の時にはよく分からなかったけど、今、改めて聞くとすごい人だったんだ。」

と、みんな驚いたように校長先生の話聞いていました。

校長先生は話を続けます。

「そんな益川さんは、六十九歳の時、実に、五十年ぶりに郷土の呉に帰って来たんだ。これが人生最後のつもりだったそうだが、その後、季節ごとに何度も訪れるようになったそうだ。そのころから、小学校に飾ってあった絵を描き始め、平成二年に完成したんだ。そして、翌平成三年八月が、本当に最後の「呉」行きとなり、平成四年一月に病室で最後の広告デザインを完成させ、三月に七十四歳で永眠されたんだ。それが、君たちが生まれる五、六年前になるのかな。」

校長先生の話が終わると、みんな静まりかえっていました。しばらくして今日子が、

「益川さんは世界的に有名な人なのに、どうしてわざわざ呉港の絵を描きに帰って来たのかしら。」

と、つぶやきました。

「だって、呉っていいところだもん。」

「さすが日本遺産に認定されるだけあるよな。」

みんなのやりとりを聞いていた校長先生は、一言、次のように言いました。

「ちよっと待つて。もし、呉が日本遺産じゃなかったら、いいところと言えないのかな。」

しばらくみんなは、黙り込んでしまいました。

